

2月23日、産経新聞は、『政府は23日午前の閣議で、左翼過激派の日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派（革マル派）に関し「全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）および東日本旅客鉄道労働組合（JR東労組）内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」とする答弁書を決定した。』と報じた。これは従来（直近では2010年5月）の政府見解が変わっていないことを示したもので、大きな社会問題としての対処が必要であることは言うまでも無い。一方で特筆すべきは、JR北海道労組（北鉄労）への革マル派浸透実態についても、『現在、警察等において鋭意解明に努めている』なる内容が答弁書で言及されていると報じられたことである。

## 政府が『警察等において鋭意解明に努めている』と公式答弁！ 北鉄労への「革マル派」浸透実態について

北鉄労への革マル派浸透実態について、これまでに政府が‘言及’したのは、2013年11月22日の国土交通委員会における平沢勝栄議員（自民党）が国会で行った質疑に対する答弁だけであった（議事録あり）。今回は、質問主意書の「JR北海道労組への革マル派浸透及びJR北海道の経営に対する影響力の行使の実態について、政府における解明状況を具体的に明らかにされたい」という問いに対する答弁の一部として、初めて政府の公式見解である答弁書に明記されたのである。これは、まさに北鉄労に革マル派が浸透しているかどうかを、警察等が動向を注視しつつ、解明すべき対象として扱っていることを、政府が明確に認めているということだ。

### JR北海道会社は、JR北海道労組（JR総連）に掌握されている！？

2017年4月18日の産経新聞朝刊では『「断ったら、あんたの将来はないよ」JR北海道関係者は、北海道旅客鉄道労働組合（JR北海道労組）の幹部から、組合員を特定の部署へ異動させるよう要求された際、そう迫られたという。（中略）この関係者は「ほとんどの職場を掌握したようだ」と話す。（中略）「一部の幹部は影響力の強い労組に嫌われたくないという意識に支配され、大胆な改革が進められないでいる。経営陣の刷新が必要だ」関係者は、経営側への影響力が過剰に強まることへの懸念を強めている』と報道し、革マル派活動家が影響力を行使し得る立場に浸透しているJR総連傘下の北鉄労と、人事権を持ちながらも介入される経営幹部との歪な関係を指摘している。

良識ある北鉄労組合員の皆さん、JR東労組と同系の怪しげな組織とは決別し、

JR連合（JR北労組）へ今こそ結集し、立ちあがろう！